

— 第3回 地域を支える持続可能な物流システムのあり方に関する検討会 —

# 大川村における新たな物流の仕組みづくり

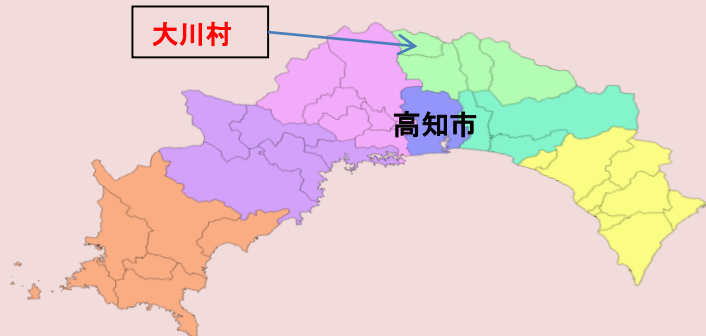


平成27年2月23日  
高知県・大川村



# 1. 大川村の概要

- ・四国山地の中央部、高知県の最北端に位置する吉野川源流域の水と緑に恵まれた村。



- ・村土の約93%が山林、耕地面積は約6%。村内全域に平地が少なく、住居の確保や産業振興を推進する上で大きな課題
- ・大部分が急傾斜地で居住地高度は350m～700mと高く、典型的な溪谷型の山村



## ■面積

95.28平方キロメートル

## ■人口等(平成22年度国勢調査)

【人口】 411人

※離島を除いて全国で最も人口の少ない村

【世帯数】 213戸 【高齢化率】 44.3%



## ■主要産業

林業、畜産業【土佐はちきん地鶏、大川黒牛】

## ■職員

21名 【平成26年4月1日現在。特別職を除く】

## ■予算

1,606百万円【平成26年度一般会計当初予算】

※歳入の大部分が依存財源（財政力指数 0.11）

## ■学 校【平成26年4月1日現在】

- ・大川小:児童数19名(内ふるさと留学生4名)
- ・大川中:生徒数17名(内ふるさと留学生11名)

### ※ふるさと留学

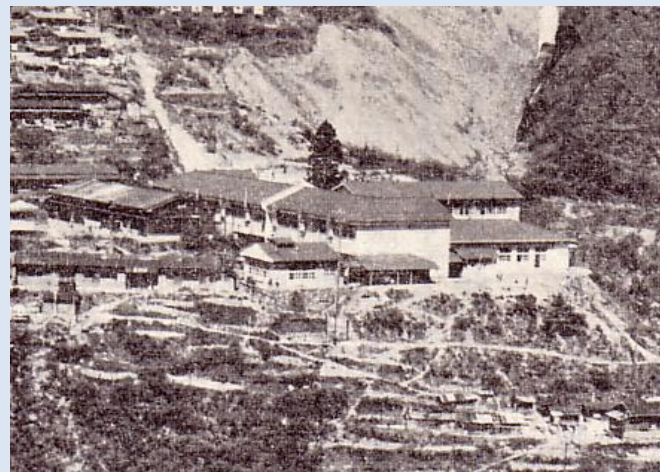
村外の子どもが原則1年間、親元を離れ共同生活をしながら大川小、大川中に通学する制度。村の活性化や教育の振興に大きな効果。

## 2. 大川村の課題

### 歴史的な背景

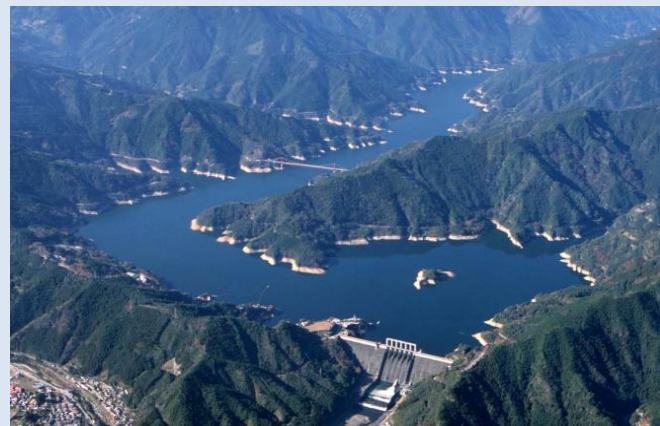
#### ◆白滝鉱山

- ・江戸時代から銅山として開坑
- ・全盛時には当該地区で2千人超（村全体で4千人超）が生活していたが、昭和47年閉鎖。



#### ◆早明浦ダム

- ・吉野川の治水と四国地方全域の利水を目的に建設
- ・昭和48年3月ダム本体工事完成
- ・昭和50年3月全体竣工。
- ・ダム建設により村中心部の集落が水没。



### 人口減少が加速

(昭和35年 4,114人 → 昭和55年 906人 → 平成12年 569人 → 平成22年 411人)

# 3. 大川村の生活環境の実態

## (1) 村内の移動手段

### 現 状

#### ◆ 民間事業者の運行バス

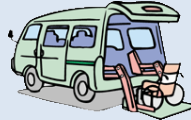
- ・土佐町～大川村～いの町(本川)→1日3～6便
- ・村は路線維持のために年約9,000千円の助成



#### ◆ 福祉バス

普通1台、軽3台 計4台

- ・あったか(デイ等)サービスとの併用
- ・登録制で事前の予約により運行、基本は平日



#### ◆ 診療所送迎バス(10人乗り):1台

- ・週3回(月、水、金)、集落ごとに運行

#### ◆ タクシー事業者は村内にはなし。

- ・土佐町に川田ハイヤー
- ・本山町に嶺北ハイヤー



#### ◆ スクールバス

- ・行きは小中学校一緒に、帰りは別々に送迎。
- ・運転手は診療所バスを兼務



※現在、村民の多くは、自家用車(同乗含む)を使用。  
福祉バス、診療所バスの利用は、一部住民に限定  
来院のついでに買い物をする人も多い。

### 課 題

- 将来を見据えた移動手段の仕組みづくり
- ・ 高齢化の進行等により、車の運転ができない高齢者が増加



**将来を見通した移動手段の確保が必要**



- ① 福祉バス及び診療所バスをよりデマンド性の高い運行方法に改善
- ・ 買い物支援とセットでの運行など

#### ② 路線バスのあり方の検討

- ・ 現在、運行会社へ村補助金を支出し、運行しているが、利用者は少ない状況。
- ・ より良い運行方法について、近隣町と連携して検討。

## (2) 日用品の確保

### 現 状

#### ◆村内の商店の状況

##### 4カ所

- ・JA土佐れいほく大川支所(小松地区)  
A商店(上小南川地区)、B商店(小松地区)、C商店(小松地区)
- ・JA土佐れいほく大川支所は、存続の見込み
- ・民間3店舗は高齢者が経営、後継者が不在



#### ◆移動販売(2店が運営)

##### ①JA土佐れいほく大川支所

- ・週4回程度(午前に仕入れて午後販売、生鮮品等は予約にて対応)【現在、約12集落48戸が利用】
- ・移動販売は今後も継続の方向だが、将来的な存続は見通せない状況



##### ②A商店

- ・週4回(集落ごとに巡回販売、運営できる限りは続けたい意向)【現在、約9集落22戸が利用】

#### ◆宅配サービス

民間宅配業者等が展開



### 課 題

- ・現状では、村内の各商店(移動販売を含む)及び村外のスーパー等で生活物資の確保はできている状況
- ・高齢化の進行や商店の将来的な存続の見通しが不安定な状況から、将来を見据えた何らかの対策が必要



- ①将来において、村内で買い物が円滑にできるよう、店舗の確保
- ②必要に応じて商品(生活物資)が効率的に配送されるシステムの構築

# 4. 大川村の活性化に向けた取り組み

## 大川村プロジェクト

### 大川村と県との連携による村の活性化に向けた取り組みの推進

・振興計画の実践による「大川村に住んで良かった、住んでみたい」村づくり

～村民一丸で何が何でも400人の人口を守る～

3年以内に自立できる取り組みを目指す

必ずしも現状前提ではなく、理想形から考える。  
(過去のことはこだわらない未来志向)

小さな村だからこそできる、人やものを最大限に生かす柔軟な発想  
(村ぐるみでの連携し積極的な人材誘致)

### 取り組みのポイント

#### 産業振興部会

##### ○畜産業の振興

土佐はちきん地鶏、大川黒牛の生産、販売の拡大



#### 観光交流部会

##### ○地域資源を生かした観光振興や交流人口の拡大

新たな観光コンテンツの構築、既存ネットワークを生かした交流人口の拡大、大川村の新たなファンづくり



#### 生活支援部会

##### ○生活交通や生活物資の確保の取り組み

移動手段の確保や買い物弱者支援などの生活環境づくり



○集落活動センターを核とした官民協働による拠点づくりと村内ネットワークの構築

○小さいからこそ可能な自助、共助の仕組みづくり

○人口400人の堅守

# 大川村プロジェクトの概要

## 大川村振興計画

### 計画期間

平成25年度～平成34年度

### 基本理念

大川村振興計画における最重要指標とする人口維持の目標は、400人台の維持（平成34年度末）とし、以下の3点において積極的な施策展開による人口増加策と人口減少緩和策を図る

#### ①自然動態の増加促進

男女の出会いの場の創出や、子育て支援の充実による出生率の上昇

#### ②自然動態の減少抑制

高齢者の健康増進対策の推進と生きがいづくり

#### ③社会動態の増加促進

・Uターンによる若者定住と子育て支援や教育環境の充実  
・地域産業の振興による雇用の促進



取り組みの  
視点・ポイント

実行

●地域経済を支える事業基盤の整備

●若者世代の経済雇用基盤の強化・安定

●地域公共サービスの維持（医療福祉、文教、生活交通等）

●創意工夫を生かした地域再生

県を挙げた支援

村と県で3つの部会を設置し、取り組みを推進

## 産業振興

### ○ 土佐はちきん地鶏・大川黒牛の生産・販売の拡大

- ・ 鶏舎の拡張、牛舎の改築
- ・ 食鳥処理・加工場の建設
- ・ 新たな加工商品の開発
- ・ 首都圏等への販路の拡大



## 生活支援

### ○ 食の確保

- ・ 小中学校、保育園、高齢者等への給配食
- ・ 地産地消による食材供給のシステムづくり

### ○ 移動手段・生活物資の確保（買い物支援）

- ・ 移動手段の充実やコンビニ・配送の仕組みづくり



## 観光・交流

### ○ 新たな観光コンテンツの構築

- ・ 山岳、湖面等の地域資源を活用した観光イベントの実施や合宿等の誘致

### ○ 既存のネットワークを生かした交流人口の拡大

- ・ どんぐり銀行、ふるさと留学、ふるさと小包、謝肉祭 等

### ○ 大川村の新たなファンづくり

- ・ インターンシップの活用等（大学等との連携）



人口400人を守る！

実行に当たっての  
ポイント

●様々な団体・組織との連携

●小さい村だからこそ可能な自助・共助の仕組みづくり

●既存システムにとられない新たな仕組みの導入

●既存の第三セクターの機能拡大

住んで良かった・住んでみたい村づくりの実現

# 5. 集落活動センターのイメージ

「村のえき」を拠点として、地域の活性化や支え合いに向けた住民主体の仕組みづくりを進めることにより、地域の産業づくりや生活環境づくりを進め、人口400人を堅守する。

## 大川村 集落活動センター

### 機能

- ・給食サービスの調理
- ・レストラン経営
- ・直販施設の運営
- ・観光案内

### 給食サービス

- ・学校・保育園等への給食の調理、配達
- ・高齢者等への配食サービス

### 農産物・加工品の開発・販売

- ・村内特産品（大川黒牛、土佐はちきん地鶏、山菜、うごっけいなど）独自商品の開発
- ・野菜の庭先集荷、出荷、販売促進
- ・食材の契約栽培の実施（学校給食等）

### 観光・交流活動

- ・山岳観光、ダム湖面観光のメニューづくり
- ・観光ガイドの育成、派遣
- ・村まるごと観光、イベントの開催

### レストランの運営

- ・地域資源を生かした食堂の運営
- ・宴会の仕出し料理の提供



「村のえき」

**拠点：村のえき**  
(旧保育園)

### 運営協議会

### 構成

- ・大川村ふるさとむら公社
- ・大川村社会福祉協議会
- ・大川村青年団
- ・各集落自治会 ほか

仕組みづくりの推進役  
【高知ふるさと応援隊】

連携する集落 【16集落 213世帯:411人】

### 高齢者等の見守り

- ・高齢者等の安否確認
- ・サロンの開催

### 地域内交通の運営

- ・域内巡回バス(福祉バス)等の運行

### 生活用品の販売

- ・生活店舗の運営
- ・移動販売、宅配サービス

### よろずサービス

- ・各集落の給水施設の管理
- ・お助けマンシステムの運営

### 移住相談活動

- ・移住にかかる相談窓口の設置
- ・空き家の管理、貸し出し等



「自然教育センター白滝」



# <集落活動センターの概要>

## 集落活動センターとは

地域住民が主体となって、旧小学校や集会所等を拠点に、地域外の人材等を活用しながら、近隣の集落との連携を図り、生活、福祉、産業、防災などの活動について、それぞれの地域の課題やニーズに応じて総合的に地域ぐるみで取り組む仕組み

皆さまのその一歩が  
集落の未来をかえる！！

## 集落活動センターによる集落維持の仕組み

### 連携集落内の組織や個人との連携した取り組み

#### ①集落活動サポート

- ・草刈り、農作業等の共同作業の実施
- ・よろずサービスの実施



#### ⑪その他の活動

- ・冠婚葬祭サービスの実施
- ・行政業務等の受託



旧小学校区単位を想定  
(集落連携による活動)

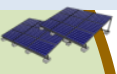
### 集落活動センター

活動の推進役  
高知ふるさと応援隊  
(事務局・実働)



#### ⑩エネルギー資源活用

- ・小水力、太陽光発電等の導入
- ・エネルギーの売電等の仕組みづくり



#### ⑨特産品づくり・販売

- ・地域資源を生かした加工品づくり
- ・直販所の開設、運営



#### ⑧農林水産物の生産・販売

- ・集落営農
- ・耕作放棄地の解消
- ・地域資源を生かした有望品目づくり
- ・薬草、山菜など新たな作物への挑戦



#### ⑦観光交流活動・定住サポート

- ・自然や食等の体験メニューづくり
- ・宿泊施設の運営、交流イベントの実施
- ・移住相談窓口の開設



### 集落内への波及効果が大きい取り組み

#### ⑤防災活動

- ・防災研修、自主防災活動の実施
- ・防災拠点づくり
- ・レポートの整備



#### ⑥鳥獣被害対策

- ・集落ぐるみの防除対策の実施
- ・ジビエ(シカ肉、シシ肉等)の取り組み



## 地域団体

(商工会、農協、社協等)

収養

「人」と「施策」を総動員  
(パッケージ支援)

- ・支援チーム編成
- ・助成制度の創設
- ・アドバイザー派遣
- ・人材研修等の実施
- ・ガイドブック等の作成 etc

センターごとの課題  
やニーズに応じて、  
きめ細やかな支援

協成

## 市町村

市町村と緊密に連携

全庁挙げて集落活動センターの取り組みを支援

高知県

## 集落活動センターのポイント

### ①主役は、地域住民の皆さま

主役である住民の皆様と市町村の一体となった取り組みを支援

### ②活動は地域のオーダーメイド

住民の皆さまの話し合いから生まれたアイデアや提案を取組みに繋げる仕組み

### ③皆さまの集まりやすい場所が活動の中心

集会所や廃校となった施設など、住民の皆さまが自然と集い、語り合える場所が拠点

### ④様々な人材を活用

住民の皆さまと一緒に取り組むUターン、移住者など地域外の人材の導入

### ⑤集落の連携による取組み

近隣の集落が互いに連携し、助け合うことにより、今までできなかったことが可能になる取組み

# 6. 大川村における物流・人流の仕組み

## 物流の仕組み

## 人流の仕組み

センターの目指す取り組み

### ○給食サービス機能

- ・学校・保育園等の給食等の配達
- ・高齢者等への配食サービスの展開



### ○農産物・加工品の開発・販売機能

- ・農産品・加工品等の「村のえき」への出荷
- ・学校等の給食や高齢者の配食サービスへの食材等の提供(野菜、加工品)



### ○高齢者の見守り機能

- ・日々の高齢者の見守りや安否確認



### ○村内の移動手段の確保機能

- ・村内巡回の福祉バスの運行
- ※現在、平日のみ社会福祉協議会が運営



### ○交流・観光活動

- ・観光客の村内ルートでの移動方法の確保



民間事業者等の既存の取り組み

### ○生活物資の確保

- ・移動販売や配達による日用品の確保に向けた展開(地元事業者)
- ※将来的にはセンターも一翼を担う



### ○物資の流通

- ・宅配サービスによる物資の輸送【配達、受け取り】(宅配事業者)



### ○生活必需品の配達

- ・牛乳、新聞等の日々、必要とする物品の配達(民間事業者)



### ○広域バスの運行

- ・大川村と村外とをつなぐ路線バス等の運行



あわせ技による効率的な「物流」、「人流」の仕組みの構築

# 7. 今後の取り組みの展開

大川村における「住民(集落活動センター)」、「民間事業者」、「行政」の協働による新たな物流、人流の仕組みの構築

## モデル事業の導入

取  
り  
組  
み

- ◇集落活動センターの「拠点」として予定している「村のえき」を核に、地域住民や民間事業者、地域団体等が連携した、村内の物流の効率的なシステムづくりの検討【配食サービス、集出荷サービス、移動販売サービス、宅配サービス等の総合的な仕組み】
- ◇村内を中心に、「貨客混乗」など、新たな仕組みづくりの検討
- ◇空路、湖面等の有効活用など、これまでにない形態の物流システムづくりの検討

平成27年度中(平成28年4月の集落活動センターの稼働まで)に一定の仕組みを確立する



### 検討のポイント

#### ①だれが(主体)

- だれ(組織)が、取り組みの主体になるのか。
- 新たな組織づくりが必要か。

#### ②何を(機能)

- どのような機能やサービスを統合させることができるか。

#### ③どうやって(方法)

- どのような体制で、どのように運営するのか。
- それぞれの役割分担は、どうするか。

#### ④どこで(範囲)

- 活動のエリア、範囲をどのようにするのか。(大川村のみか、周辺市町村を含めるのか。)

#### ⑤どのくらい(経費)

- 経費はどのくらいかかるのか
- 事業として成り立つか。
- 成り立たない場合の負担をどうするのか。